脱炭素先行地域の取り組み実績

省エネ・ZEB改修実施ビル棟数	既存住宅への太陽光等導入数	観光施設への太陽光導入数
20棟 うち ZEB4棟	34戸 太陽光 187kW 蓄電池 337kWh	3施設164kW

投資額	CO_2削減量	再エネ電力切替件数
18.4億円 ※設備整備額合計	約7,000t ※一般家庭の年間CO_2排出量2,800戸相当	67件

※令和6～7年度の2か年累計（令和8年3月31日現在）

仙台市地球温暖化対策推進計画における位置づけ

本市では、「仙台市地球温暖化対策推進計画」を策定し、家庭や事業活動からの温室効果ガスの排出削減や公共施設の脱炭素化に取り組んでいます。脱炭素先行地域の取り組みも本計画の施策の一つに位置づけており、計画の着実な実現と市域全体に展開できる脱炭素化モデルの創出を目指しています。

本市の温室効果ガスの削減目標

2013年度	温室効果ガス排出量 911万t-CO_2
中期目標	2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で55%以上削減（森林などによる吸収量を含む）します
長期目標	2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ※を目指します

※実質ゼロ：温室効果ガスの排出削減と吸収源確保の取り組みにより、排出量と吸収量を均衡させること

仙台市脱炭素先行地域プロジェクトパートナーズ

様々な分野の企業や団体がプロジェクトパートナーとして連携しながら、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めています。

より、そう、ちから。東北電力 / 東北電力 ピソライフ株式会社 / NTT EAST / カメイ / アイリスオーヤマ / 大成建設 For a Lively World / DAIKIN / COOP MIYAGI / 77 BANK 七十七銀行 / SMBC 三井住友銀行 / 三井住友信託銀行 / 定禅寺通街づくり協議会 / 定禅寺通エリアマネジメント / 東北大学 TOHOKU UNIVERSITY / Panasonic / 仙台市高断熱住宅普及促進協議会 / 東北バイオフードリサイクル / パーク24株式会社 / NTTアノードエナジー / think clean. 協業組合 仙台清掃公社 / 仙台清バイオマスパワー合同会社 / 住友商事東北 / 守屋木材株式会社 / VEGALTA SENDAI

杜の都ゼロカーボンサイト ～実際の取り組み事例を紹介～

脱炭素先行地域の様々な取り組みや成果を発信する仙台市のホームページです。実際の取り組み事例や市民・事業者へのインタビュー、家庭や事業所が気軽に実践できる環境配慮行動などを分かりやすく紹介しています。

詳しくはこちら

お問い合わせ 仙台市 環境局 先行地域推進室 022-214-5376 kan007160@city.sendai.jp

令和8年8月版

脱炭素先行地域

SENDAI

109万市民の"日常"を脱炭素化

ZERO CARBON ACTION

「働く人」「暮らす人」「訪れる人」が豊かな時間を過ごせる"新たな杜の都"

脱炭素先行地域とは

国が掲げる2050年カーボンニュートラルの実現に向け、2030年度までに家庭やオフィスなど民生部門の電力消費に伴うCO_2排出量実質ゼロの実現を目指す、全国のモデルとなる地域で、本市は令和5年11月に環境省から選定されました。「定禅寺通エリア」「泉パークタウンエリア（紫山3・4丁目）」「東部沿岸エリア」を対象に、住宅やビルなどへの省エネ・再エネ設備の導入を促進し、全国に展開可能なモデルの構築を目指しています。

脱炭素先行地域での主な取り組み概要

定禅寺通エリア（働く・集う）

- 既存ビルにおいて、省エネ・ZEB改修など**「業務ビルの脱炭素リノベーション」**を実施また、ビルオーナー・地元事業者向けに**省エネ・ZEB改修見学会**を開催
- ゼロカーボンイベントなど、脱炭素・資源循環の「見える化」を促進
- **「都市バイオマス資源」**を活用し、サステナブルなまちづくりを推進

泉パークタウンエリア（暮らす）

- 既存住宅において、太陽光発電の導入や断熱改修など**「住宅の脱炭素リノベーション」**を実施
- **高度なエネルギーマネジメント（DR）**を既存住区で展開
- 地元工務店と連携し、リノベーション体験会や断熱スクールを開催

全エリア共通

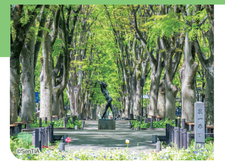
- 清掃工場で発電した電力の環境価値を活用し、**地産地消型の再エネ電力メニュー**を創設
- 全市民を対象に、省エネ推進などの行動変容を促進
- 市営バス、ごみ収集車、配送トラックのEV化など**運輸部門の脱炭素化**

東部沿岸エリア（学ぶ・楽しむ）

- 観光施設などへ太陽光発電を最大限導入
- EVカーシェアなど**脱炭素モビリティの導入**
- 太陽光パネルのリユースなど**防災・環境技術の実証フィールド**に活用

対象エリアにおける主な取り組みの詳細は中面へ

定禅寺通エリア



杜の都を象徴する定禅寺通エリアでは、市役所本庁舎の建替えや道路・公園の再設備などにより、まちが大きく生まれ変わろうとしています。「使いながら省エネ・ZEB改修」による脱炭素リノベーション、官民連携による資源循環の取り組みやイベントのゼロカーボン化を通じて、脱炭素と賑わいの好循環を生み出す持続可能に魅力あるまちづくりを進めています。

既存ビルの営業を止めない「使いながら省エネ・ZEB改修」

使いながら改修工事の様子

カーボンニュートラルの実現には、既存ビルの脱炭素化が不可欠ですが、中小規模のテナントビルでは、テナントとの調整や改修中の賃料収入の減少などがハードルになっています。「使いながら省エネ・ZEB改修」により、営業への影響を最小限に抑えながら、ビルの脱炭素化と資産価値向上を実現しています。

詳しくはこちら

営業したまま、省エネ＆快適オフィスへ！

設備の更新時期を迎えていたことに加え、仙台市の脱炭素先行地域としての取り組みも後押しとなり、ビルの総合的な改修を実施しました。「使いながら省エネ・ZEB改修」により、業務を止めずに照明や空調設備などを更新し、電気使用量の削減を達成。また、高効率空調の自動制御によって温度ムラが解消され、省エネと快適な執務環境の両立が実現しました。

カメイ株式会社
遠藤執行役員

人々が交流し、定禅寺通を盛り上げる起点に

省エネ改修によって新たな魅力を備えたビルに、「まちの景色を守っていく」という私の理念と、まちを盛り上げたいというビルオーナーの思いが重なり、出店を決めました。おむすびを通じた地域の魅力発信や、時間帯によって異なる業態の展開により、多様な人々が交流し、新たな価値が生まれる場を目指しています。「まちづくりのためのお店」として、定禅寺通の賑わい創出と魅力向上に取り組んでいます。

おむすび東雲
赤羽根店主

地域団体と連携した持続可能で環境に配慮したまちづくり

長年の課題である事業ごみの路上排出に伴う都市景観の改善に向けて、地域のまちづくり団体と市が連携し、ビルオーナーやテナントの協力を得ながら、路上排出の抑止とビル敷地内の集積所整備を進めています。

拡張した歩道空間

定禅寺通から始まる新しい脱炭素のかたち

脱炭素先行地域の取り組みは、CO_2排出量の削減だけでなく、地域課題の解決やエリア価値の向上にもつながる重要な取り組みです。協議会では、行政と地域、事業者をつなぐ橋渡し役として、脱炭素化や景観美化を推進し、脱炭素と賑わいの好循環による持続可能なまちづくりに取り組んでいます。

定禅寺通
街づくり協議会
佐藤会長

都市バイオマス資源×地域循環

■ 定禅寺通等食品リサイクル推進モデル事業

飲食店から排出される生ごみを分別回収し、バイオガス発電の原料として活用しています。生ごみをフタ付きの容器に排出するので、カラスによるごみの散乱防止にもつながっています。令和7年度は116店舗が参加し、204トンの生ごみをリサイクルしました。

モデル事業の周知ポスター

■ 定禅寺通サーキュラープロジェクト（JSCプロジェクト）

（一社）定禅寺通エリアマネジメントと民間企業、市が連携し、エコロジーでサステナブルな地域づくりとエリアの魅力向上を目指しています。ケヤキの剪定枝と家庭から収集したプラスチック資源を原料としたオリジナルタンブラーや楽器の製作、地元ブルワリーと連携したケヤキビールの開発など、資源循環の「見える化」に取り組んでいます。

詳しくはこちら

JSCタンブラー　JSCガンザ　JOZENJI STREET BEER

イベントで発生するCO_2排出量実質ゼロへ

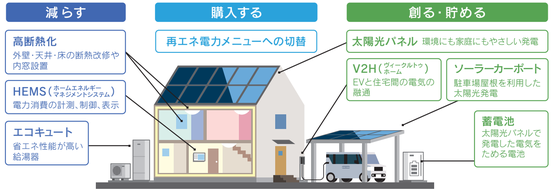
イベントの脱炭素化を推進するため、「ゼロカーボンイベント運営事業費補助」を創設。本市を代表する「仙台・青葉まつり」や「仙台みちのくYOSAKOIまつり」などにおいて、プラスチック容器や生ごみなどの資源化、発電機燃料のカーボンオフセットなど、イベントのゼロカーボン化に向けた取り組みが進んでいます。

泉パークタウンエリア（紫山3・4丁目）

泉パークタウンは、1万を超える世帯が暮らし、人と自然が調和するまちづくりが行われており、新規住区ではエネルギーの自産自消など先進的な取り組みが進んでいるエリア。先行地域エリアの紫山3・4丁目は築10～20年の住居が多く、住宅の改修と併せて再エネ・省エネの導入などを行う脱炭素リノベーションや、DRなどの取り組みを進めています。

住宅の脱炭素リノベーション

既存住宅への再エネ・省エネ設備の導入や断熱改修、再エネ電力への切り替えにより家庭で使用する電力のCO_2排出量実質ゼロを進めます。太陽光パネルや蓄電池の導入は、電気代削減のほか住宅のレジリエンス向上にも寄与します。また、断熱化により快適な室内環境の確保、ヒートショックのリスク低減や結露防止など、健康的な暮らしにもつながります。



■ DR（デマンドレスポンス）の取り組み

DRとは、電力の需給状況に応じて家庭の電気使用を調整する仕組みです。東北電力のDRサービスと連携し、発電量の多い日中はエコキュートでお湯を沸かし、夜間は蓄電池を活用するなど、再エネの有効活用と電力の安定供給に取り組んでいます。参加者はポイント取得などのメリットを受けられます。

再エネ普及に向けた新たな制度

本市では、太陽光発電を設置する場合、建築基準法で定められた建ぺい率や高さの制限などについて特例的に許可する制度を令和8年3月より開始しています。「ソーラーカーポート」も対象となっており、屋根への太陽光パネルの設置が難しい場合の新たな手法として期待が高まっています。

東部沿岸エリア

東日本大震災による津波被害を受け、多重防御の整備や住まいの移転などの復興まちづくりが行われた東部沿岸エリアでは、集団移転跡地における観光・交流施設の開業など、復興の次なるステージに向けた賑わい創出が進んでいます。再エネ導入や脱炭素モビリティによる回遊性向上などを通じて、「復興・防災・環境の先進地」を目指しています。

観光施設の省エネ・再エネ設備の取り組み

沿岸部の賑わいの拠点となる観光施設では、太陽光発電などの導入に取り組んでいます。クリーンエネルギーの地産地消を進めることで、災害時にも電力を確保できる防災性を兼ね備えた施設を実現。来場者が自然や地域の魅力に触れながら、環境に配慮した取り組みを身近に学び、体感できる場を創出しています。

Garden Kitchen 海と風

非日常体験を提供する自然と調和したバーベキュー施設

JRフルーツパーク仙台あらはま

仙台観光の新定番！季節ごとの果物摘み取り体験が楽しめる観光農園

深沼うみのひろば

海風を感じながら誰もがほっと一息つける地域に開かれた憩いと交流の拠点

下水処理場のカーボンニュートラル化

東日本大震災で甚大な被害を受けた南蒲生浄化センターは、2019年に復旧を完了しました。現在、オンサイトPPA方式による太陽光発電や消化ガス発電の導入、下水汚泥の資源利用の拡大に取り組んでいます。2025年には国土交通省の「カーボンニュートラル地域モデル処理場計画」に東北で初めて登録され、下水道分野の脱炭素化を推進しています。

東部沿岸エリアの回遊性向上

地下鉄東西線荒井駅を拠点に、EV（電気自動車）のカーシェアリングを導入しています。公共交通による移動が難しかった沿岸エリアのアクセス性を高め、スムーズな周遊をサポート。走行時に二酸化炭素を出さないクリーンな移動手段を提供することで、運輸部門の脱炭素化を進めながら地域の魅力発信に貢献します。

ぐるっと、海手

海辺の自然や観光スポット、イベント情報など、海浜エリアの魅力をまるごと発信するサイト「ぐるっと、海手（うみのて）」。おでかけ情報や地域で活躍する人々の想い、まちの魅力など多彩な情報を紹介しています。また、エリア内をゆっくり巡る電気自動車「グリーンスローモビリティ」を活用し、脱炭素にもつながる新たな周遊手段の実証にも取り組んでいます。

詳しくはこちら

エリア全域での取り組み

市民の環境配慮行動の促進

市民や事業者の環境配慮行動を促進する「杜の都脱炭素デイリーアクション」を実施しています。楽しみながら参加できる仕組みにより、脱炭素行動の定着と参加の輪の拡大を目指しています。

ゼロカーボンPRイベント

運輸部門の脱炭素化

公用車や配送トラックのEV化により、運輸部門の脱炭素化を進めています。「クリーンなごみ収集」を目指し、太陽光発電で充電する東北初のEVパッカー車を導入。定禅寺通エリアの生ごみ収集にも活用し、環境負荷の低減に貢献しています。

太陽光発電で充電中のEVパッカー車

脱炭素×テクノロジーの実証

太陽光発電の災害リスク抽出アプリの開発

ハイブリット空気電池の電力供給実証

テクノロジーで防災課題の解決とビジネス創出を図る「BOSAI-TECH」の枠組みを活用し、脱炭素や気候変動の課題解決を目指す「GREEN-TECH」を推進し、地元企業の育成や新たなビジネスの創出を図っています。